

はじめに

2012年は、欧州債務危機や超円高、さらに領土問題をめぐる日中関係の悪化などにより、日本の経済は大きく落ち込んだ年でした。特にテレビ関連の電機メーカーの業績は厳しい不況となりました。しかし、2013年に入り円安も進み、徐々に回復の兆しも見えてきております。

情報機器関連では、「iPhone 5」の発売などによりスマートフォンが急増し、「Kindle Fire」や「Nexus 7」の発売などによりタブレットや電子書籍端末も急増しました。これらモバイル端末は、今後もますます増え続けると予想されます。また、このようなモバイル端末の普及により、「Facebook」に代表されるソーシャル・ネットワーキング・サービスの利用者が急速に増えてきています。最近では「Facebook」で情報を発信する企業も増えてきています。

技術調査小委員会は、協会事業に関連する技術調査を主な業務としており、本年度も昨年同様に「当産業協会会員各社の大きなビジネス領域を占める画像技術とそれを取り巻くハードウェア・ソフトウェア技術に関する先端技術の調査・検討を行ない、広く会員各社に紹介し、技術の向上に寄与する。」ことを基本方針として活動をおこないました。その中で、特に環境とソフトウェアに注目し活動を行ないました。本報告書では、その活動を報告します。

本年度は、講演会を2件、現地調査を3件実施しました。

講演会としては、一つ目は「電子書籍端末のオフィス業務での適用可能性の検討」というテーマで、急増する電子書籍端末と紙の比較についての講演会を実施しました。二つ目は「触って楽しい！遊べる“視触覚ディスプレイ”」というテーマで、人とユビキタス情報社会を結ぶやわらかなインターフェイスとして、感触表現の制作支援を目的とした触覚ディスプレイ技術の講演会を実施しました。

現地調査としては、次世代の環境技術を集約した全国初の地区として次世代環境技術を体験できる「とよたエコフルタウン」、地球環境にやさしい取り組みを盛んに行なっている京セラの「京セラファインセラミック館」、時代を先取りした価値創造を継続的に社会に提供し続けているオムロンの「オムロンコミュニケーションプラザ」の見学会を実施しました。

講演会、現地調査とも、どれもとても有益な情報を得ることができ、参加された方々の今後に十分役立てたのではないかと考えております

技術動向については、本年度は記録方式による分類ではなく、プロダクションプリント機器、オフィス機器、産業用出力機器として用途により分類し、その技術関連の動向をまとめました。また、本年度は世界最大の印刷機材展 drupa2012 がドイツで開催され、ランダ社のナノグラフィックプリンティングなど新しい印刷技術が紹介されました。この drupa2012 関連の概況についてもまとめました。

注目技術については、本年度に発表された各社技術の中から、4件の技術解説を掲載いたしました。

本年度の報告書も、例年通り PDF による電子文書での配布といたしました。会員各社の皆様に広くご活用いただき、今後の会員各社の更なる発展に寄与できれば幸いです。

最後に、お忙しい中活動にご協力いただいた、会員各社、講演会講師の皆様、現地調査の関係の皆様、注目技術の執筆者の皆様、ならびに当小委員会委員、事務局の皆様には、心より感謝申し上げます。

2013年4月

技術委員会 技術調査小委員会
委員長 西原 雅宏

禁 無 断 転 載

2012 年度「ビジネス機器関連技術調査報告書」“はじめに”部

発行 2013 年 4 月

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)
技術委員会 技術調査小委員会

〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目 25 番 33 号 NP 御成門ビル
電話 03-5472-1101(代表) / FAX 03-5472-2511